令和4年度(令和3年度実施事業分) 主要事業評価各課総括表・2次評価表

2次評価者

建設部市街地整備課

建設部長 村瀬 浩之

整理No	主要事業名	3か 年実 施計 画	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
			自己 評価	評価内容	方向性	内容
25-1	J R 武豊線連続立体交差化事業	あり	C	高架側道整備事業については、側道用地取得率100%を目指し用地取得を進め、3件の用地取得をすることができた。用地取得を完了するため、粘り強く交渉を続け、合意を得る必要がある。また、高架下空間活用については、基礎調査として市民及び事業者等に対してアンケート調査を実施し、ニーズ等の確認をした。引き続き事業を実施するため、国の交付金など事業費を確保する必要がある。	拡充 推進	高架側道の整備に支障となる用地取得を完了するとともに、高架本体工事の着手に伴い必要となる仮設道路の整備を行う。また、高架下空間や鉄道残地の活用方法について、庁内関係各課とのプロジェクトチームにより、事業手法の検討や事業者へのヒアリング調査等を実施し整備計画を策定する。
25-2	J R 半田駅前土地 区画整理事業	あり	C	地権者と移転交渉を行い、19件の物件移転補償契約の締結をした。概ね目標値を達成することができた。今後も交渉を密に行いながら計画的に建物移転を実施する。また、駅前に相応しい土地利用及び景観形成を図るため、地権者の合意を得た上で地区計画の指定及び景観形成重点地区の指定を行った。	拡充 推進	地権者と交渉し建物移転を進めるとともに、宅地造成、道路整備、跨線橋移設等の区画整理事業を実施する。電線共同溝の整備においては、電気事業者と実施に向けた設計協議を進める。
25-3	乙川中部土地区画 整理事業	あり	B	跨線橋については、歩道橋1橋を施工し、上部工として桁の製作及び桁の架設を3径間実施した。また、昨年度に引き続き、環状線4車線化工事を進め、257mにわたり4車線化することができた。今後、跨線橋の完成とともに国道の嵩上を実施するため、臨海部の企業など関係者と調整を図ることにより、令和5年度末の環状線の全面供用開始を目指す。 物件移転補償については、交渉を続けている補償対象残り1件の契約を締結する必要がある。	拡充 推進	跨線橋を含む環状線の完成及び事業の早期完了のため、J R 東海(株)はじめ関係機関と協議や工程の調整を綿密に行い、工事の進捗に合わせて国の交付金等を確保する。また、物件移転補償の契約締結のため、粘り強く交渉を続ける。
課等長	1次評価（令和3年度の総括評価）					
C	<ul style="list-style-type: none"> ・J R 武豊線連続立体交差化事業については、愛知県と連携して側道等の用地買収を進めているが、地権者との交渉が難航し、側道用地の取得完了には至らなかった。令和4年度も引き続き、全ての側道用地の取得完了を目標に交渉を進めるとともに、事業の早期完了を目指して、国や県に対して積極的に要望活動を行い財源の確保に努めていく。 ・JR半田駅前土地区画整理事業については、地権者との交渉を密に行い19件の建物移転補償契約を実施した。今後も粘り強く交渉を行い建物移転率の向上を図り、併せて、道路整備及び宅地造成工事等を施工することで速やかな事業実施を目指していく。また、J R 半田駅周辺の整備については、地区計画の指定及び景観形成重点地区の指定をすることができた。今後も事業推進のため、国や県に対して積極的に要望活動を行い、事業の財源の確保に努めていく。 ・乙川中部土地区画整理事業については、国の交付金を活用し、跨線橋整備として歩道橋1橋、桁を3径間架設し、環状線4車線化工事も予定通り進められた。保留地処分については、近隣住民との折衝、保留地パンフレットの配布等が販売促進につながり、多くの保留地を販売することができた。 					
部等長	2次評価（令和3年度の総括評価並びに今後の方針及び指示事項）					
C	<ul style="list-style-type: none"> ・J R 武豊線連続立体交差事業については、残り2件の事業用地の確保に努めるとともに、J R 武豊線の連続立体交差事業及び高架側道整備事業の早期完了を目指すこと。また、事業完了後の高架下空間の活用に向け、関係各課と協議の上、基本計画を策定すること。 ・JR半田駅前土地区画整理事業については、建物移転を着実に進め、J R 武豊線の連続立体交差事業にあわせて早期事業完了を目指すこと。 ・乙川中部土地区画整理事業については、保留地処分において、P Rの手法や売却方法を検討し売売を目指すこと。また、令和5年度に、事業区域内における環状線の全面供用開始をし、事業の早期完了を目指すこと。 					